

「安全運転管理に関する諸規定及び様式例」と「事故多発地点の図面とその対策」

小林 哲之

愛媛県大洲市 愛媛舗道株式会社社長

ばらつきのある 会員事業所の姿

さて、今回から私が会長として取り組んできた大洲安全運転管理者協議会ならびに愛媛県安全運転管理者連絡協議会における具体的な活動についてふれていきたい。まず、大洲で手掛けた活動の主なものを紹介したうえで、号を追って愛媛県全体の取り組みについて話を進めるとにしよう。

昭和56年5月に大洲安管協会長に就任した私は、会員事業所の運転管理のあり方に「ばらつき」があるように思った。事故防止に向けた組織の取り組みも、企業であれば経営者、団体であればその代表者の安全に対する認識によってさまざま、運転管理者の選任の基準などが

「あいまい」であることもわかった。道路交通法で定められた制度に基づいてはいるが、安全運転管理というものを理論的にも技術的にも深く考え、危機管理の観点から体系だった戦略として社内業務や人事管理に組み入れている事業所はあまりにも少ないように思われたのである。

自分の会社を顧みても、人の命にかかわる仕事をする事業者であるから安全確保のために必死になって努力し、そのために人づくりもしてきたが、安全運転管理を会社の体系的なシステムとして位置づけてきたとは到底いえなかった。自分なりに安全な企業風土を育ててきたつもりであったが、他の事業所にも当てはめることのできる普遍的な安全システムができていたわけではなく、あくまで我流

機動力として車両を利用するいわば大人の運転者たちの安全を助ける存在である。安全運転管理者を主軸として、組織の中により多くのセーフティドライバーが育つ土壌を早く作らなければならぬ。そういう思いから、私は就任しては

どなく「安全運転管理に関する諸規定及び様式例」というマニュアルの作成を急ぎ、大洲安管協を発行主体にして昭和61年1月初頭、32頁の小冊子を全会員事業所に配布した。

制度が生まれてすでに20年を経過していたので、管理規定や服務規定はもちろん安全活動の年間計画、安全教育のありかた、車両管理台帳、運転日誌、事故報告とその処理分析、通勤規定や私有車借上げ問題、マイカークラブの規定見本等の細目もできてはいたのだが、各事業所においてそれらが水平的に受け入れられ実施されているわけではなかった。

写真と地図で示す 事故多発地点対策

マニュアルを配布した狙いは、管理者が法の基本構想を再確認することで役割を自覚し、周囲の人たちに自信を持って安全運転管理の重要性を訴えてほしいというものだった。もちろん、管理者向けの法定講習も行われており受講率も100%に近い水準であったが、安全管理の問題がトップ層の常識となるには至っていないからである。「はじめに」というところで私は次のように書いた。「安全運転管理とは、安全運転管理者が、人間生命の尊重、企業責任の自覚、

の安全管理だったのである。

水平展開目指す 運転管理の基本

事業所に所属する運転者が安全に対する高度な自覚を持ち率先して安全運転を心掛ければ、その地域の交通社会の安全の輪は大きく広がりをみせることになる。なぜなら、その周辺には親や子どもをはじめ家族や隣人がいるし友達もいるからである。昭和41年に改正された道交法における安全運転管理者制度の思想はそこにあるわけで、私はいまでもそれを非常に尊いものと思っている。

交通安全協会は巨大な組織であり、あらゆる階層の国民とともに安全活動を展開する存在であるが、われわれは業務の

社会秩序の保持といったものをじゅうぶんに認識して、事業所において使用している自動車・二輪車による交通違反や交通事故を完全に防止するため、管理規定に基づいて、実際的に具体的な行動処置を日々実施することであろうと思います。以下は、安全運転管理に関する諸規定及び様式について編集したものです。皆様の事業所に即したもので改善事項等がありましたら参考にしてください。

このような「紙の弾丸」による支援とともに、協議会は地域の交通現場に密着した事故防止にも目を向けた。平成年間に入ってまもなく、大洲警察署の協力によって制作配布することのできた「事故多発地点の図面とその対策」という写真と地図入り24頁のパンフレットがそう

だ。市内のみならず、大洲に通じる八幡浜、宇和、伊予などの危険箇所を取り上げ、多発する事故形態と安全運転の留意点を解説したものである。これは、よく利用するルートの注意事項として大変役に立つという評判をいただいた。事故のない安全運転を交通戦争における勝利になぞらえ、孫子の兵法で有名な「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」という言葉を引用して会長の挨拶文としたのだ。

(続く)



絵・市川興一



小林哲之(こばやし さとし)さんのプロフィール

1942年(昭和17年)愛媛県大洲市生まれ。愛媛舗道株式会社社長。大洲高校から麻布獣医科大学(現・麻布大学)に進み65年卒業と同時に父君が創業し経営する愛媛舗道株式会社に入社、83年社長となり今日に至る。早くから交通安全の重要性に目を向け81年大洲安全運転管理者協議会会長に就任(在任25年)、89年愛媛県安全運転管理者連絡協議会副会長(同12年)、2001年より会長(同5年)をつとめ、愛媛県高速道路交通安全協会副会長(同5年)なども歴任した。事業所の運転管理を中心に地域社会における安全活動の推進力となって強いリーダーシップを発揮し、その功勞により2005年春の第45回交通安全国民運動中央大会においては全国優良安全運転管理者協議会の代表として表彰状を受けた。